

Economic Indicators

発表日:2020年12月8日(火)

国際収支(2020年10月)

～堅調な輸出を背景に貿易収支は高水準の黒字を維持、経常収支は黒字幅を拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2019	10月	18,541	17,277	1,949	1,229	720	16,355
	11月	14,563	18,072	1,750	842	907	17,933
	12月	5,449	18,839	3,306	1,805	1,501	16,654
2020	1月	6,617	16,721	▲1,208	▲615	▲593	19,318
	2月	31,804	23,622	4,822	8,184	▲3,362	20,234
	3月	19,595	9,218	▲4,691	▲1,407	▲3,284	14,955
	4月	2,033	2,413	▲13,678	▲9,861	▲3,816	17,364
	5月	10,796	7,229	▲8,692	▲4,921	▲3,771	17,925
	6月	1,333	10,078	▲4,438	▲1,671	▲2,768	16,262
	7月	14,992	9,951	▲1,416	557	▲1,973	12,433
	8月	21,145	16,593	1,640	5,412	▲3,771	17,085
	9月	16,602	13,455	4,276	7,774	▲3,498	16,035
	10月	21,447	19,833	5,380	7,538	▲2,159	16,849

(出所)財務省「国際収支統計」

○10月の経常収支は黒字幅が拡大、堅調な輸出を背景に引き続き貿易収支が大幅な黒字に

10月の経常収支(原数値)は21,447億円の黒字(コンセンサス:21,204億円の黒字、レンジ:16,540億円の黒字~26,800億円の黒字)とほぼコンセンサス通りの結果となった。また、季節調整値では19,833億円の黒字(前月比+47.4%)となった。貿易収支が高水準の黒字を維持したことに加え、9月に大幅な悪化をみせた第二次所得収支の赤字幅が縮小したことで、経常収支は9月から黒字幅を拡大した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易収支が7,538億円の黒字(9月:7,774億円の黒字)と高水準を維持したことに加え、サービス収支が▲2,159億円の赤字(9月:▲3,498億円の赤字)と赤字幅を縮小させたことで、貿易・サービス収支は5,380億円の黒字(9月:4,276億円の黒字)と黒字幅が拡大した。世界経済の持ち直しを背景に輸出が前月比+2.3%、輸入が同+3.1%と増加が続き、輸出の水準が輸入を大きく上回ったことで、貿易収支は高水準の黒字を維持した。サービス収支についてはその他サービス収支の赤字が縮小したことにより赤字幅が縮小した。なお、旅行収支については訪日外客数の急減に伴い低迷が続いている(9月:297億円の黒字→10月:223億円の黒字)。

第一次所得収支は16,849億円の黒字(9月:16,035億円の黒字)となった。第一次所得収支は高水準を維持しており、引き続き経常収支の黒字を下支えする構図が続いている。

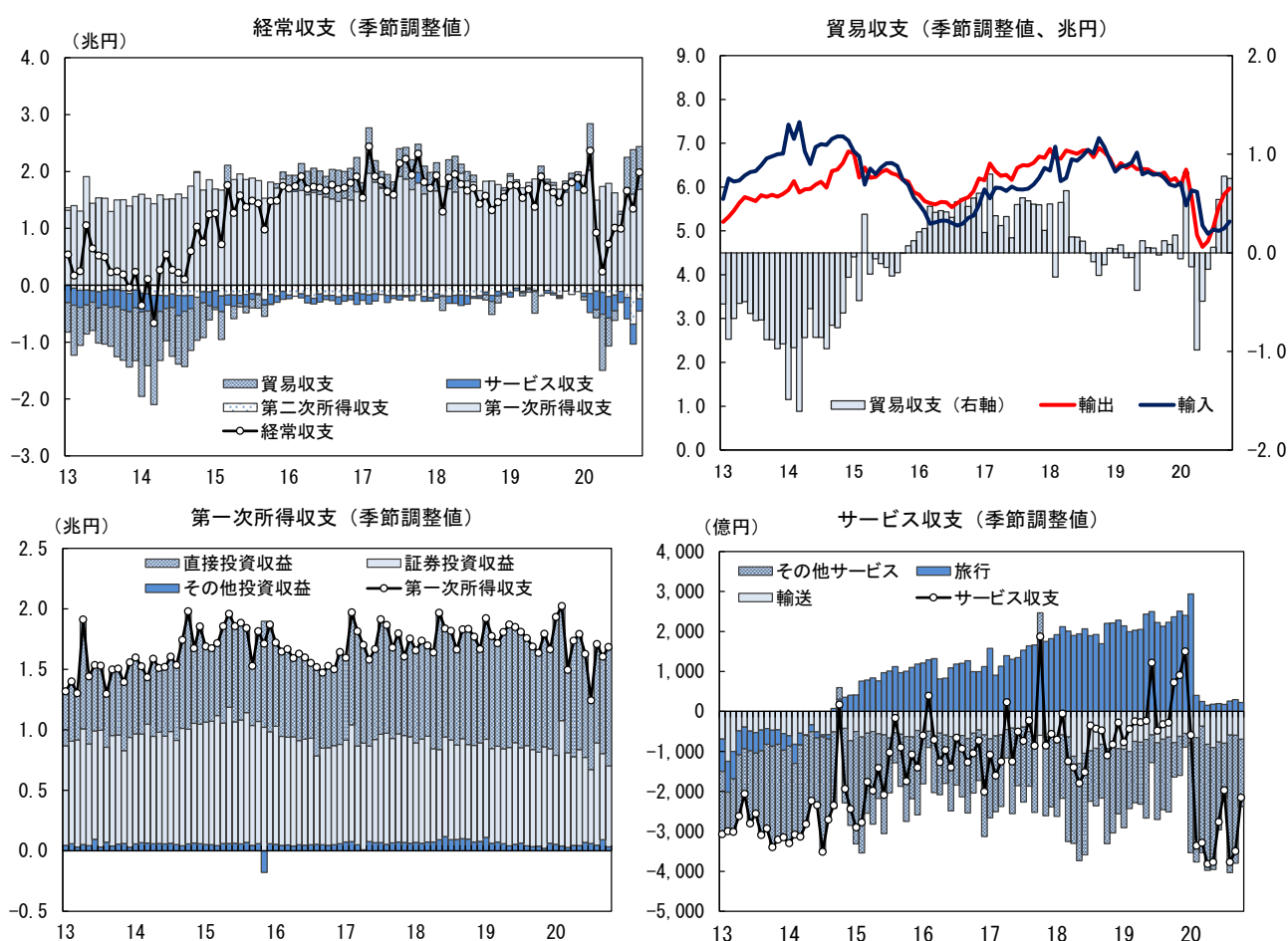
9月に大幅に悪化した第二次所得収支については、赤字幅を大きく縮小させた(9月:▲6,855億円の赤字→10月:▲2,395億円の赤字)。前月の支払の急増は一時的なものであった可能性が高いとみられる。

○堅調な輸出をけん引役に、10-12月期も前期比で経常収支の黒字は拡大する公算大

以上の通り、10月の経常収支は貿易収支の高水準の黒字に加え、第二次所得収支の赤字が縮小したことで9月から黒字幅が拡大した。11月も輸出が堅調に推移することで、経常収支は高水準の黒字を維持するとみている。

11月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比+1.1%、輸入が同▲8.4%となった。これをもとに試算をすると、10月から輸出入ともに増加が続く見込みであり、貿易収支は引き続き高い水準の黒字となる可能性が高い。低水準での推移が続く旅行収支については、訪日外客数回復に向けた動きが進んでいるが、国・地域や人数が制限されているなど観光目的の訪日外客受け入れについては先となることから、回復にはまだ時間を要するだろう。第一次所得収支については、今後も高い水準で推移し、経常収支の黒字を下支えする構図が続くとみられる。もっとも、前年比でみると、企業収益の悪化による配当金の減少などにより受取額は減少が続いており、今後も下振れリスクが残ることには注意が必要だ。

先行きについても、世界経済の回復に伴う輸出の堅調な推移や高水準の第一次所得収支が経常収支の黒字に寄与することで、経常収支は10-12月期も前期比で増加が続く公算が大きい。もっとも、国内外での新型コロナウイルスの感染再拡大やそれに伴う経済活動の制限、米中対立の行方など、下振れのリスクは残存しており、先行き不透明感が強い状況は続くとみられる。



(出所) 財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。